



武江年表

五

伊地知文庫
文庫20
383
5



文庫20
383
5

武江年表卷之五

伊地知氏書冊



延享元年甲子 二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内より下野若船地蔵開帳○同日より市谷八幡宮地主茶木稲荷社開帳○二月六日夜子上刺天中央より少し西の方へ
 ○如此星現る嘉瑞之といふ○二月より護國寺にて武州河嶽山藏王権現開帳○同月より淺草寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の間中村嘉三郎芝居舟舳の初年より百二十一年の壽狂言奥行○矢口新田社廟の碑を立南郭文を撰取○四月二日儒師山本吹丈平名信一柳島法性寺小蘇
 ○約辺新日山王宮宮建○四月朔日淺草光感寺名信一柳島法性寺小蘇尚麻髪毛曼茶を拜せむ○四月より護國寺より上野碓氷郡松井田金剛寺十一面觀世音

武江年表卷之五

碓氷定光 守本尊 開帳 ○ 四月朔日より休川八幡宮境内にて 伊勢白子子安親世音開帳 ○

夏より冬まで法園風邪流行 ○ 六月十五日 神道学者 岡田盤舟 卒 名正利孫丸を 七十八歳没す

○ 七月朔日より 日向院にて 瑞倉寺徳院大佛腹籠鉢陀開帳 ○ 七月

死八幡宮内氷室明林開帳 ○ 七月朔日より 芝神明宮内にて 稻垣光明寺

十一面觀世音 儀後太 開帳 ○ 七月九日 善家山本惟命 卒 林忠左衛門 三回竜原寺小葬

○ 七月晦日 休人 中川宗瑞 卒 暢徳院 小葬 ○ 七月海中魚多死生 釜貫此魚

も同く死せり ○ 八月八日 不動寺内にて 大磯切通 梅林寺身代

地蔵為開帳 ○ 九月廿一日 山谷町 本性寺 自雲靈神忌日 小檀の産若

多傍とりの入江戸小下り 新川の商家岡田某不孝一けり 心直ある 友其家を焼く 死後

終るよつて 秋山自雲 冥神と祭る ○ 九月廿七日 金雕工土松安親 卒 七十五歳 通称 孫八

○ 釜師 淨林 卒 月日 不詳

延享二年乙丑 十二月間

二月初日より 茅場町 茶師 境内にて 信及蓮池院 派訪本 地勝軍 不動寺 開帳

○ 二月廿日 龜戸 天満宮 近隣の 在家より 火出く 先祖信祐が 建立せし 社以下一宇

も跡も 焼亡せり ○ 二月より 横谷長谷寺 大徳親世音 祈首 仏開帳 ○ 月十一日

より 日向院にて 上洲 極楽山 正法寺 親世音 開帳 ○ 二月十二日 朝五時 延千 結谷より

出火 青山 狹ら 様 因 麻布 三軒 家 本村 氷川 社 若福寺 門前 廣尾 白令村 三回 併

四子 白令 瑞聖寺 様 町 車町 寺 輪南 小泉川 追焼 亡 武家町 産 縣 惣十三日

鎮より 痛如 末方 小立なる 但唱が 化火 六の 仁王 尊に 石像 并 地蔵 尊の 石像も

焼亡せり 方方 白金細川 廣尾 市 一の 辺 伊四子の 焼亡せり 延百三十年 目まで の 焼亡せり ○ 四月朔日より 淺茅 實如寺

にて 常陸 小金井 妙徳寺 日蓮上人 開帳 ○ 月日より 日向院にて 攝洲 茶碓山 禁一

も 圓光大師 引接 跡 地 如 末 開帳 ○ 月日より 牛込 四福寺にて 相洲 妙徳寺 皇

降梅日蓮上人像開帳○同日より所務前八幡宮内にて信州為界山建龍寺不
勅為開帳○同月二日より本所より目大佛勅進下之由於東大寺二月堂觀

世音經施如未開帳○四月より護國寺蟹清水出現茶師自坊より開帳○

四月十八日書家関口黄山卒名忠貞 小日向金剛寺小葬○七月朔日より伊勢朝熊岳金剛

濟寺虚空藏并日向院より開帳○同月六日より茅場町茶師内より相勅令

目山坂東七番目聖觀音開帳○八月十九日大風雨芝浦辺竜巻あり○九月十

四日大風家益々換先 浅草福井町銀杏八幡の 浪古古樹次郎○十月十日儒師長次東海卒名五字元下 深川徳隆

延享三年丙寅

二月朔日より隅田川本母寺梅若丸寺本寺文殊菩薩開帳○同日より雜司谷

本納寺より相州系教寺休息日蓮上人開帳○二月廿九日夜間時於築地本願寺

照武家方より出火とこの邊武家方一東南八町堀本八町堀茅場町小堀町大

坂町堀町葺菰町芝居為座村松町橋町北辺武家方より喰町漢町日羽町米沢

町本所小泉町横堀町松井所相生町龜澤町辺武家方浅草より小塚東中へ延焼

聖朔日夕七ツ時浅草寺の東側の 坊舎の未刻焼○二月晦日昼本所美山寺横堀より出火大

風此辺の寺院多く焼亡○三月より浅草寺内松壽院丈六每丈天腰龍像開帳

○書家赤井得水卒林文次子 伊勢町住○四月朔日より橋上寺常照院阿久芝浦出現

経施如未開帳○四月より湯島又井内にて常洲麻島護摩堂本寺五丈の

五開帳○下谷合茶王院釈迦如未開帳○四月烏丸光榮公関東山下向所

道の記ありうらわの漢の記と字介 一巻○浅草池の妙音寺より駿河蓮永寺

日蓮上人鏡於開帳○同日不動尊境内より下谷葛飾郡正覺寺不動尊開帳

○半邊原町後主寺より京上香利実相寺雨初日蓮上人像開帳○六月十

八日より六月十八日迄日延 三十日浅草寺親世音開帳○月廿六日より所務前大護院

八幡宮中地愛深明王開帳わいせんみやう○六月十日儒師藤江那良平藤江那良平○七月

朔日あさごころより忠信中地苑等開帳○七月より本新彌勒寺川上某師如來開帳

○七月十日秋澤章弼池田利美紀伊孫孫熱湯の三人淡墨川に網を打て一寸

七分の不動等の像をとりて大同二年宣海と彫り谷中妙林寺に安置す○九月

芝神明宮神主西東某等天満宮古草聖像を移せしむ○九月朔日より谷中

大系寺ありて大系天開帳○十月廿日社別為成院本堂方丈障欄をの外

とも焼亡○事始合考写本成柏崎系○江戸ありて二冊持行小本

○江戸名勝志持行友之康著 三卷

延享四年丁卯

二月朔日より淡墨寺内梅園院子育仁王普賢帳○同日より淡墨新地某師如來開帳

○二月九日外堀田火事法慶の藩邸焼九十九号と云○淡墨

八幡寺町本法寺より安房赤茶小松東院息古日蓮上人像開帳○牛込七軒

町久成寺より後河原本日蓮上人像開帳○二月朔日より谷中一宮寺子女鬼

子母神開帳○小谷法養寺より甲坊兼淨經寺日蓮上人開帳○二月悪

黨濱島庄云湯井堂刑せらる世に日本丸と云○四月朔日大霜降つ

る○同日より深川永代寺より大坂所城生玉形神開帳○同日より谷中

妙法寺より中山日蓮上人像開帳○同日より廿日追押上某某寺尊賢菩薩

開帳○三田寺町林泉寺より実初聖英那牛共似村住生寺園光大師開帳○

牛込新樂坂元寺親世寺不動尊開帳○小石川若雄寺より引地苑等開帳○

寫佛正覺寺跡地如來開帳○後江名成院社 神田明神北隣に移す後安永

後江不後安永 ○六月十七日儒師菅野兼山卒兼山卒

八十金文名家有林平助俳諧兼書画せよし七十三年

又塗物よりありての粗不名あり桶下に住せり ○六月廿七日俳人致曲齋遠志卒七十三年

○六月晦日太宰春菴平 八十八天祐孫春菴門 谷中 天理寺小築 ○春川秀蝶宅宿社(祇園會細園の額を掲ぐ) ○浅草大護院八幡宮修復落成の爲三年の暮晴天八日りの寄進帳身初あり ○七月初日より回向院より羽州湯殿山注連寺大日如來開帳 ○月日より回向院より上徳園小田森大森寺保院如來開帳 ○十月上旬より諸風邪流行 ○十月廿二日御人菊岡治涼卒 六十余才名房行号米山崔下菴林菴右橋村田能治所住 留妙子世る法橋

此年間記事

真先稻荷社延享三四年の以より諸人多く整葺せり ○谷中坐敷稻荷系指物 ○風閣 南山派修驗 船頭あり 陽徳天社中坂より聖堂級一修り ○延享二年の美江宿の流行物と集めり句集あり時時風と歌之時々門人及故柳果然といふ人の編 再ハ書合 中内と撰て目次のをせたりあり

△浮繪 遠来の山水也 △雜司谷合式物 △月百夜系 △月風車 △志道形講釈 △中聖桃園 △寫が長吹矢 △下子屋敷た境の香具 △女角力 △紙張良書清 △辻室引 △象股引 △券角力 △大名儉純 △聲道心 △竹村慈保 △多敷稻荷 △西面草 △雷鶴之介相撲 △芝鏡切取 △赤坂奴 △正徳寺紅巻 △薩摩草干 元文の暮の日のあれが時時たり △珍重せ △回向院赤淡雲 △辻の楊柳屋 小間 △深川筑葛麦 伊佐屋 △牡丹屋表花廿日半白と下 △海棠花蜻蛉巻 △宅宿下植木市 △浅草園十良艾 下梳子豆はや二羽れ花敷童 △湯島油揚 △伊四子越 △霞面沢巾 △山下敬縁 園中み花と云霞あり土 女の新 未考 △中村屋貸物 貸衣袋 △吉原格籠 △釋迦坊主 未詳 △麒麟の助 経葉 △深川帽子 △兼平様 △忍儉純 未詳 △鳥越口罾 △巻簾賣 尾伝也 △豊原酒 酒 △芝菜 若菜おやくや親の 尾伝 △廣澤石摺 △豊後節 △大名極袖口 △神田花考の者 △羽織長紐 △江戸川推本 大場 △担言化若津打治長清 △熊野十二所

△涼砥大夏

新米や二二のころとりの山狩野實信味殊の
水戸の画師とて日の出太夫を画く小名あり

△八人藝

今もその名を
北の松の松

△崎子丸

丸くは角巻扇地紙の角巻をこの形を皮(皮)の中
巻を常葉の形を皮の中を中(中)とてつくく(中)の

△加賀骨扇

△地蔵尊

二分坂法堂
常樂院

△懐紙折

通新石所

△粗方坊

東洋
本葉葉餅こけ外河

何れも誓ければ

○好女のたがさといひ物始の後一旦廢れり寛政より再定り○郡内

微塵縞衣類なる○江戸節古依名祀第節木の標芝居あり

次子小廢れ大政の長女とあり

寛延元年戊辰

十月間

七月十八日改元

三月二日夜谷中陽林寺より出火本堂塔以下燒亡感應寺

本堂塔門前所燒亡○三月十八日より魚籃觀世音團帳○月日より

三田基町泉福寺某師團帳○月廿日より魚籃下大信觀世音團帳

月廿五日官醫曲直津若瑞卒

六十三才養安院と異
麻布天竺寺小蘇也

○三月廿九日南郭の長子

温々卒

○四月朔日より日蓮宗天壽院如來靈室團帳○月日より

永代八幡宮團帳○二本榎兼敬と祖師團帳○浅草日福寺本所圓向院

の内の所は於て奥明會津西光と日蓮地蔵尊團帳○六月朝鮮人末聘

副使南恭孝後奉曹命某旅宿東本於る

真狂金藤井といふ人淺草と圓王堂の額を書す

○八月十日書家馬場妻水卒

市谷長男

○十月廿二日他人堀内仙鶴卒

○十二月琉球人某磚

○奥澤村浄心

同二年己巳

正月廿三日長瀬流草道祖名權耕雲卒

山義樹卒

○今年外佛啓龜肇りの月日詳あるは開

帳記よりしてたまたま

○深川湯橋本大夫古川某師如來安養品川寺水月觀音三ノ輪其二聖觀世音。
 秋葉控規四谷成院監踏作爲淺草足利町東住院爲橋本大夫天護末子内
 日香院荒澤不動尊。月松壽院六條大夫天護統奉爲池の妙音寺妙見井
 不忠池并大夫文治之院のうをを造りて納む。其年より其下迄。谷中長蓮寺祖師鬼子母
 神三田町明正院弘法大師。月不於海寺不動尊。右の如く自防不居村の園帳之
 ○本母寺梅若丸二十万五千日供養。○二月九日日向院に於て常陸國河内郡
 大徳村宝積寺子安年大夫天閑帳。○四月朔日より五月晦日迄日向院に於て三河
 金山中檀林法苑寺出世親世者閑帳。○五月十九日六月三日迄龜戸妙藏寺
 檀規閑帳。○六月六日羅漢寺中興源先和為寂七十。○六月四日北村湖光寺
 正谷日宗ちよき。○七月朔日より日向院に於て信長若光寺南門外西新堂觀音寺地
 爲閑帳。○當夏中より雨繁く降りて七月も晴るが、廿五日より大雨

雨降り更より雨降り續け、八朝大風起り時々雨降八月十三日の曉より小風大
 嵐となりて半辺小日向出あり下谷淺草辺迄溢れ出たり園園と辺草を流し人を
 溺れ江戸川邊に押し流し小石川邊大水神田上水掛樋流し昌平橋魚
 邊橋以外并回川橋に流るる國橋大橋恙也。本和深川水等、九月
 より御晴天とあり。○八月光物飛ぶ。○雜司谷鬼子母神境内は孝女く免と
 りよりの麦菜をこぼれる南寺清獅子を賣り始む。○十月十八日茶人望月
 宗舟宗舟卒。吳の隱形。○新著聞集十八冊刊行。中古世の中の事柄を
 辨新大夫本社を閑帳有り。御座り。系譜の辨新あり。

寛延三年庚午

二月十五日より下谷寺若地蔵寺閑帳。○高田感通寺毘沙門天閑帳
 ○三月十八日より晴天十五日迄橋本門外轟地に於て信長親世大夫御進旅

身あり ○房州加茂村日蓮寺祖師浅草

七月近芝泉岳に秋迦如來開帳 ○日暮里に於て小道灌丘碑を立筑波山人

石正橋文を撰む ○四月廿三日朔曇八ッ時之雨小大風向大叢塔

也之家を渡り小川町番町八十位筋邊外勅進藤原盛

信去寺不動尊開帳 ○七月より濱至本松院之越後西降す海院

弘智法印像開帳 ○七月七日儒師中尾廣徳卒

儒師井戸甘谷卒

此年回記事

延享四年三月の以より不忍池新築地出泉て茶店場弓場溝新場未建

法之ね藝昌一又寛延二年舟大天の島より西芝町の裏一板橋を信折はし

て架けおふりりてふまゝ高依て八ッ橋といひ移るに沈の輕多死由也於て

毀ちをらるゝ ○此時代より開帳場ま神佛より次撤せざる事始なり

○江戸書抄六十帖写本成

延四年の再訂惣庶子に於時世の商物を載れども二書世より友とふ

抄物せり ○傀儡師江戸の方言ふし描といひ二月十七八夜同ト不せ也

ふ天文巻神田佐之間町二丁目三丁目の小あり 池の端築出り新堀と記り

白山河殿は茶園と名風園古聖堂南ふあり

寶曆元年辛未 六月間 十月三日改元

二月十八日より護國寺親世音開帳 ○三月十日佛人石賜子卒

○三月十八日より淺草寺親音音開帳

○三月廿一日に月六日中を

本下川澤光と茶師如來開帳○二月廿二日より平井村燈明寺にて成回ふ親
 寺開帳○四月朔日より淺草報恩寺親書上人運物を執せしむ○八月より
 淺草寺所正福院柳福存開帳○八月より回向院にて甲辰若光寺師院如
 來院松佛開帳○系於本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳○其金枝
 園株も七面大明神開帳○大師河原平回寺大師開帳○待乳山聖天宮二并
 帳○淺草寺町 にて依波隊系振本寺祖師開帳○浅草寺八幡宮
 開帳○八月朔日より湯宿社地にて後父子権現開帳○八月より浅草
 寺八幡宮にて夏加茂郡最勝院親如來開帳○浅草寺内正福
 院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮開帳○谷中妙法寺不動寺開帳
 ○不忍寺才天とて常陸水戸玉里妙法寺不動寺開帳○六月三日
 待人益田雀樓卒 名伯隣本所は丁月六日美多茶店のある一あり ○八月廿日

荷田在満東於の卒 早より終東に遷浅草令終ち不華以男所住 ○九月毎日俳人
 小沢下尺卒 浅草の哲学者華次 ○十月十日儒師市野光業卒 家子暁本を教中
 ○古来よ女蘇者といふ所の今年より始る 扇屋の再仕といふ所の始ありまより進ん
 ○再訂江戸惣藩子名所大全梓行 奥村玉華編 ○南向茶話字本成 酒井氏
 江戸地理沿革の同巻あり明和二年の
 逸考を合す一部と云

宝曆二年壬申

正月四日物産家丹羽正伯卒 丸山寺坊 ○二月二日より三圍稻花町神開帳
 ○二月廿二日より中の如玄輪寺聖徳太子宗帳○二月廿六日天満宮八百八
 十年御忌○八月より湯島天満宮・麹町平河天満宮・小石川半又林・巢鴨
 小系町又満宮開帳・飛戸又満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
 開帳○二月廿八日より目黒不動寺開帳○三月朔日より湯島社地にて伊豆

八丈島為朝明神開帳南苑○四月朔日より飛戸河嶽山檀現業平天神南苑
 吾妻森吾妻檀現飛戸門院正親善木母寺梅之右本寺文殊并飛
 戸竜眼寺中藏檀現神宮右依れも自坊より開帳あり○四月朔日より
 日向院より系知恩寺山光大師利劍名号開帳○同日より半邊系町山寺
 あり房及小段誕生寺祖師開帳○九山津より祖師谷中が寺祖師
 開帳○四月々麻布光雲寺之大師河系法寶院地苑并開帳○四月より
 目系寺福院誕生八幡宮開帳○五月深川寺之方堂重修○六月廿日
 池の端妙地之系屋六十九軒中非家數解多引拂せり多くの寺にふまを
根承りたむをぞ
 ○七月朔日より湯島社地下野那須野泉漢寺誕生石化聖觀音開帳
 ○同日より日向院より武明相生不動恩村惣教寺不動寺八丈寺子開帳
 ○七月十五日儒而中西淡洲寺早二年名維章孫号七弁
此上中宿院不詳○同月十八日倭文子卒下

弓丁伊勢屋平右衛門の娘より七葉御所の門ま
 入て園字わらふ名あり深川を越えふ葬り
 餘りの長サ二丈餘を方せり大和
妻秋子也○八月二日夜永代橋の北の方小
 位声あり何とも知れり河上○七月護持院大破又付江所と動化を奉り
 ○八月十日山縣周南卒年六才孫少助
子左保福子以孫也○方井土常光寺向合引く後
 昭和二年相秀寺と改称移上人痛あり○十二月流球人來聘正使今内仁王子

宝曆三年癸酉

正月四日六日八日大雪九日十七日十八日廿二日雪廿二日大雪廿日由二月朔日
 二月三日五日九日十日十二日十三日十六日地震十七日十九日大雪廿日終中
 廿二日廿八日廿九日世日由三月二日大風名曉七時より雷雨大雪降去時晴以矣乳
 候多しの世
大和
美秋○二月朔日より駒込目赤不動寺開帳○同十六日より護國寺下
 甲州方力村帰命院信去寺中寺深院如東開帳○三月十六日甲州身延山祖師

深徳子付江戶到病の日近ひの人救品川より日本橋迄行く何町構中と書る
に徳藏ありと書る 困懐挿中 四月朔日より深川降ふと書るに徳藏

○三月十三日より九月晦日迄薩摩外祀社にて加ふる人散芝居真形本小会

小四郎之○四月朔日より湯島社にて武明一の宮龜川明神園帳○同日

回向院にて武明懸谷と深院如未蓮生坊新園帳○四月朔日迄新形と書る

大師新園帳○四月十番より深川永代にて奥島金花山年々大 大金 園帳 敷居甲 堀二の

堀城と納む細上人 堀城と納む細上人 八幡町登甲あり 右兵衛海と六月二日より千石と本母とと園帳あり○四月より

九月より麻彦流行人身と死を○五月十二日儒師相家亮居年 号親圃又向主 麻布寺と書る

○六月舟舞及芝居曾我祭今年より終る○六月廿日儒師相月半法眼不角

卒 九十二天立羽千翁と云筆比の成儀と云筆と 辞世 空々みりりとの裸と云くけり ○七月朔日と浅草本法と云と相州就の

に組師園帳○同日より護國寺と云と相州曾我中村と云と送山社信院深院如表

不親者園帳○同日より 八日 近 荻場町茶師境周と云と大坂又と云と南谷室京

危寺聖徳太子 末筆 正親吉園帳 長岸島後町提打在寄脇 誓の起りのを能む ○七月朔日より回

向院と云と徳及大寺法親寺寺馬取親母と云園帳○月十六日より浅草極と云

奥列衣川地花院と云と親世と云と敬普立住生像 六又二分 甲胃 園帳○八月廿日書家

平林惇信卒 六十八号静安消日居林赤入年 本所中之々妙深寺と書る ○十月谷中嶺と云と小會式撰と云

始む 有遊二十三日申上人極る所より廿年 上人二十三日思ふ高と云と云と云と

宝曆元年甲戌 二月回

正月廿日秋生叔達卒 名親号北溪祖未の家才也 三田長吉寺と書る ○国二月より穴八幡宮本比佛

并氷室明神園帳○月回向院と云と奥列會津高巖寺園光大師園帳○

国二月三日より西花芳八幡宮内と云と越後し宝寺大日如來堂帳○国二月より

永代寺と云と藤枝山本比親世と云園帳○獲ふと云と親世と云園帳付堂と云と詳せむ

○三月十六日儒師蒞子謙卒 名益益名福 ○四月朔日より南都西大寺秋迎

如來開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 林多膳弱也 ○五月三日儒師去在燒直

卒 号琴瑟法堂 ○六月廿五日能人権井吏登卒 法の雲中者 ○幡隨志院の

和尙谷中三崎小芳賢山法住寺開創 其地ハ溝ハ虎ノ 江戸中の男女此形の土

砂を運び日あづべにて成就す世俗新幡隨志院と云ふ ○七月廿二日儒師

羽川珍重卒 七年余之此の寺に在りて其由亭の燕石雜志に ○八月十五夜酉の

刻月蝕 皆既 ○八月十七日儒師石島正持卒 荒波山人と号す ○十月改番領乃

あよみとのみ ○十月十六日儒師河合子深卒 号静秋林三八 ○十月廿二日儒師

自在庵祇徳卒 押上大雲寺小葬也 麻布若菜也

宝曆五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺に亙り至州玉法花寺祖師開帳 ○三月より護國寺

あて常州 養父不動寺開帳 ○三月朔日より晦日迄牛山あて社改修慶

成就の舟開帳 山録不由 ○三月十三日下谷法書あて此上本門に旅立祖師開

帳 ○同月十五日より十九日迄日向院を明曆下酉正月焼死弱死の輩百年

忌を越法あり ○三月十六日より深川永代寺を信州戸隠の神九頭龍

権現 顯光 開帳 この内神あやめを神子屋女の女ありて名をおまんと ○同日より浅草

降念寺大字利劍名号 法五十二名様三 朝日如來開帳 ○茅場町茶師内より

ねぬ六山の藤子易親世音開帳 ○四月の以下より下総古河恩業橋の造より

弘法大師の利益あて茶水涌出るといふ俗説を信し貴賤羣衆 この水を各

々或男内(権)と九月迄小彼地を旅舎千枚符を刻し又右に文字現を石

より芽を出し流言して江戸市中の乃路を誣るりのあり聖道小あり

止む ○四月朔日より日向院を小金東漸寺圓光大師開帳 ○四月より

青山善光寺法院如來園帳○江之上宮每才又園帳○八月十五夜園成時月蝕六分○冬米價貴踊を○十月儒師
飛舟圭例卒 名田清葉
谷野院不葬

宝曆六年丙子 十一月

正月十日新我木町より出火為座芝居敷焼○去年冬より米價減少
色揚走○二月初日より牛込久成より上総園植生郡妙宜より親延生地
経該祖師園帳○園向院にて彼岸中加賀白山神影釈迦佛舍利園帳
華泣虎画せ揚る○三月中梨山火燒き度く火災なり○四月朔日より園向
院にて安房園那古寺 坂本二十
三番 親世音園帳○四月六日より同馬成院新葉
師園帳○四月より東の院より常陸園茨城郡稲田山西念寺室物を焼く
○四月より下谷本法寺にて下谷平賀本寺より白毫光祖師園帳○市谷

八幡宮境内より後念持り園我光院弘法大師八幡大菩薩園帳○六月東

叡山仁王門所再建○六月画工尾川龜玉卒 六十八才白山中下名光寺
兼以 男七松茂といふ

廿音佛人兩夜菴成卒 牛島
弘福寺不葬 ○七月下谷本泉寺より佐波谷妙照

祖師園帳○十月谷中修性院の庭今年より園き每喜遊親の所とる

發起高田氏庭他最痛斗碑を立て左の白錢鶴を 名光之
称義卒

不二法くハハのありし ひびくく庭 ○同十月廿日儒師小出三山卒

焼亡山下町加賀町惣十郎所尾張所辺出雲町金六町辺沼本枕町三

十音極仙臺養與平度所藩邸追同日於此の築地武家方より出火之

為奉於此地内十比五寺南小田系町海手追焼亡○同日益有青山檀園系

より出火之麻布辺二本榎三田の邊を焼亡○本々新町家此以追圍は

う崩しりのと唱ふる菜蔬をさす小作りより一町を改り後より料理

兼屋を出し女を抱て砂をうせり世人大根畑と云ひあり世を

宝曆七年丁丑

三月朔日より芝林明宮境内より近江多賀大社開帳○三月より上野
 清水親世普開帳又雲仙森尚徳上野清水寺之景法穿破の類を掲
 ○三月十日より春日川に善光寺本尊を移地如來開帳本堂修葺今年成就
 廿九○四月十日より不忍寺又開帳○三月より常磐現社北より武州
 幡金剛寺火防不動尊長一丈開帳○四月朔日より回向院より安房法隆寺能
 満虚空藏并開帳○四月朔日より回向院より越後之田善導寺若乃大
 師園光大師開帳○四月より浅草九品寺普賢地藏并開帳○永代より
 系本山金蓮寺深谷地蔵并開帳○四月より五月迄霖雨冥冥洪水奥州
 肌腫之江戸の米價も次第に登揚せり○七月關東中玉洪水○八月二日

谷中法住寺開募了願和尚寂○八月十日下谷坂本小野照橋明神祭礼
 出練物不出以後中流之○八月十四日官儒土肥元仲卒名元成号震洲
林深居市谷
 必聖小華○九月廿二日より深川八幡宮境内より大慈氏勅進能貞仍○田村元
 旌始湯高小おいて物産會を催す聖年又林田
小會合あり○真先稻荷社流石出て回樂
 茶屋敷軒出来之盤易す○十月廿日金彫之柳川直政卒六十一○十一月廿八日
 儒師桃東園卒名道隆牛島
弘福寺小華○十二月廿六日浅草墨田町より出火して火
 火不及ふ所蔵の恙あり

同 八年戊寅

二月八日より木下川茶師如來開帳○二月より獲園寺より上野出流山
 子親世音開帳○二月十五日回向院より常陸齋島本地子親世音開帳
 ○同寺より臨海若乃善光寺鉢陀如來開帳○三月朔日より晦日迄

浅草報恩寺にて所内八尾所坊大信与宝物を拜せしむ ○浅草若立古父

佐渡國所報實相寺朝日祖師(并帳) ○牛込東町 惣光寺にて後洲沼津

妙海寺祖師(并帳) ○麻布兼教寺にて鎌倉松葉谷妙法寺祖師(并帳)

○湯島社地にて比叡山坂本末達寺跡院如來開帳 ○廣尾天現寺

毘沙門天開帳 ○市谷八幡宮内にて遠州濱松大福寺茶師如來開帳 理延仙人の作

○赤坂鈴降稲荷開帳 ○芝居下志福寺茶師鞠町九丁目寅茶師開帳 ○

三月十日夜四時時美濃島山火大川端追焼寺時焼火 ○六月日蓮寺師里

村昌迪辛 辛 ○八月日較洲海晏寺親世寺(并帳) ○九月廿日廿九日連雷鳴雹降 ○

古曆便覽再刊 東師ふるまふ其年女永 ○十月深川雲雲院神開劍 本山放光 本堂山

門田珠稿為社外悉く成就也 惜以本堂曆十年二月六日の災ふらん此北の林承度下を致すなり

宝曆九年己卯 七月国

二月十日より日向院より出羽湯殿山本道寺大日如來開帳 ○二月終不承火

災あり ○三月十二日より浅草寺平寺より系妙満寺祖師(并帳) 三十二枚鏡村曼茶羅茶道成之後ある

○二月十七日御人若本乾付年 満屋形千袋見と号稱世雷解や八十年の御持外、二句の御東上りの文句を多く作りし御人といひ

○三月十首より本本新寺座敷にて紙後高田本

松本寺空物川越の名号と稱せしむ ○三月川崎明長寺石親寺開帳 ○芝

令松園珠寺にて千住日慈寺と鬼子母神 清正 開帳 ○四月八日より本所跡跡寺

茶師如來開帳 ○同日より下谷法養寺にて鎌倉比企谷妙本寺祖師開帳 ○四

月十首より廿八日迄龜戸妙義山権現開帳 ○浅草岡麿堂又多田茶師肉

と奥州柳津虚空院并寶頭盧舎者開帳 ○米穀豊饒あり ○六月廿日

服部南郭辛 七十七名名元齋林小右衛門品川東海寺住持小林院 ○七月朔日より麻布

華以男惟家惟恭ハ父小光七辛以

善福寺親鸞上人海上人像開帳 ○同日浅草五泉寺中相州聖降天拜祖師

開帳 聖降妙純也 ○武州大板大聖不動尊自坊之開帳者 ○八月令根札

新親正信止あり ○八月十六日高田宮八幡宮祭礼出禊り物を出し其後朋和也

年返續く ○九月十六日約迎神明明宮祭礼産子町より出禊り物を出し

平賀鳩溪湯湯乃物産の命を催し 月十二年 ○九月晦日法惠和尚駒込園光寺

小寂以 十三初雅より説法とあり世々今法法といり下依圓羽生於是皆樂の腹を身

入得阿弥陀仏と号しを母の願徳といり寶曆六年三月十五日四月五日

川原川よりおいて講説あり 諸君の大家郡都の良賤日毎に群集し其徳

と仰ぐ 後師へ東海居士の孫の人之明和五年十二月十日化寂あり八十に齡とい

寶曆十年庚辰

正月二日目蓮祐天寺二社社海上人寂 名愚 号括蓮社信阿 ○二月廿日夜八時赤坂

今井谷より失火して麻布辺日ヶ産雜色十番個坂三因寺町伊豆子聖坂より

田町赤川海子不玉る ○同月六日成刻神田旅籠町寺子目明石登といり足袋屋

より出火乾大風佐之間町辺より不及次儀芝辺より玉橋馬喰町本町日本橋江戸

橋辺靈巖島新川辺源川一飛側傍本場の辺迄焼亡世三万壘焼矣永代橋新大

橋も焼る七日已刻燃火 ○同日芝村町赤太存倉の向湯屋より出火濱松町行門

前金杖芝田町辺本芝海濱迄焼亡 ○三月十五日より四月六日まで六所跡院

不跡開帳乃基芥千五十年忌 ○市谷八幡宮甲冑社像開帳 ○玉子稻荷

社地より越後高田妻日山 鎌信 毘沙門天開帳 ○三月廿日より圓向院にて美濃

園稲園誕生寺園光大師開帳 ○概町法方より徳列佐倉松林より千手觀

世吉開帳 ○四月より八月迄早天 ○四月廿八日英一峰卒 津川法隆寺中 ○五月

二日書家猿溪卒 本元明 ○九月十九日鳴島風卿卒 名信遍字海徒孫乃流

○十月十日儒師福菜迂舟卒 七十七歳名正養孫十五歳約旦
菴老古公養子男と黙多といふ

宝曆十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百十年忌 ○二月朔日より茅協町茶師内にて信丹寺

井郡金胎寺不動尊出山釈迦如來開帳 ○三月朔日より淺草寺五尊より甲

舟遠光寺日蓮上人像開帳 ○三月十二日より本下川茶師如來奉堂修復

出来寺開帳 ○四月十日より奉処法恩寺にて系本寺と釈迦佛像開帳

○四月朔日より回向院一言觀音寺開帳 ○同日より洲寄弁寺天開帳

○四月八日より十七日迄新尊越念佛院中納僧尼廿又井邊供養 ○四月者

山若老寺阿彌陀如來開帳 ○三回八幡宮開帳 開か合れとて
買宝小物せり ○雲巖島山覺寺

橋本橋為社茶師如來開帳 ○四月八日より淺草寺玉泉寺より下総國塩谷

法宣寺祖師開帳 ○淺草唯念寺より下野國高田阿彌陀如來 若老
一新分身 開帳

○青山 久保
町 寺徳寺十二兩親世寺開帳 ○千駄谷八幡宮より武州入若郡山

口村東蓮寺 秀衡守
市多 車遷三尊阿彌陀如來開帳 ○四月十五日より相次江の高

岩登舟才天開帳江戸より系指寺 ○五月能治師慶紀速卒 卒分谷中
奄取寺小尊

辞世 公年て若てあめあむるよ
殊院小向てやまけり ○六月金胎寺大津尋常卒 比十二
松久也 ○八月十七日堀

町中の芝居 標
座 上りの芝火燭町葺屋町敷焼 中村勤三郎が芝居の
若後中よりしり焼 ○九月三日官儒

中村蘭林卒 名明遠林深菴
谷中お林寺 ○九月廿二日金胎寺新浦宗意卒 六十
一才 ○十一月廿

七日儒師井上蘭堂卒 名通照林嘉照
落合菴雲寺 ○十一月二日能人松本淡淡浪菴卒 八十
八才

○十一月廿八日親善上人五百年忌 ○目黒村長泉律院開創堂宇落成 三保
山若

大徳正成菴大雲和尚浄去傳の二寺成創せんと志願せし入寂の後建弟小如百計千歳にて川越
蓮聲寺に主教兼上人力と勤七終小成終すとの時位職兼寂徳門和為乃徳の才あり臨門師
業状記一巻 ○十二月廿日金胎寺福川直光卒 稱文四拜
弟中野寺中お菴

同 十二年壬午 四月閏

二月日本橋南町焼亡○四月より東本願寺にて常陸國水戸縣船山新
 入寺宝物を辨せしむ○八月より深川津島より甲助小室妙法寺祖師開
 帳○八月より日向院あり上徳園子田村衿念寺齒吹彌陀如來開帳○八月
 浅草西福寺慈母赤天宝物開帳○麻布一本松大法寺大慈天傳教大師
の他二面開帳
 ○高橋如來寺あり多摩郡日永村一石山十一面觀世音開帳○宮極度
 申堂開帳○豆立郡湯根安穩寺日蓮上人牛込宗相寺あり開帳○昨年
 山王洲祭礼延引今年六月祝あり○七月より永代寺あり成田不動寺あり
 帳○伊豆子長慈母あり越中本流谷本法寺海中出現法花經紺地金泥大
 曼荼羅本相あり○谷中大杉寺あり下総水戸野法蓮寺日蓮上人像開帳
 ○牛込國福寺より豆洲加殿妙國寺日蓮上人開帳○浅草新町宗安寺七
 重觀世音開帳○浅草極寺負佛河津院如來開帳○十月三日書家祝田

耕山卒名雅通祿甲四郎
名子建待寺小葵○十月龜戸禪眼寺小殖髮の冬子を安置於荏原郡
 法永清谷寺小立一像之

寶曆十三年癸未

二月十五日より龜戸龍眼寺殖髮聖徳太子開帳○二月より深川玄信寺
 河津院如來開帳○二月廿六日より三月廿六日迄龜戸天満宮社改建完成
 二付開帳○三月九日より押上太雲寺觀世音開帳○三月廿三日より日向院
 老上洲大同山聖徳太子開帳○四月八日より深川津島より堀の内
 妙法寺祖師開帳○四月朔日より芝如來寺あり河内森井八幡宮開帳
 ○四月七日瀧山町より出火救急燈塔所門前延焼之○六月十日山谷巽
 田明神祭禊産子町より出火物を出其後休む○六月廿一日
 画家將野祐清英信卒号如滿寺年七十五
深川津島寺小葵氏○長崎より傳一と号し生年未

より之谷治小いむ日せ撰び一と一技摺を賣出たり○六月能優萩野八重
 桐根之宗中河ふ起碎身の餘り蜆を食ふとて川下り立歩き一落入弱死を
 平賀鳩溪根より受とりてる紙をつててる子成のぶ○八月廣東人參
 高臺を止めぬ○九月朔日日蝕九分曆面不脱せりといふ○九月廿四日
 系礼昨年より延ひ當月既行○十月廿四日所幸于月岡田治助
 朝鮮人參座を令せらる○十二月十九日書家篠田行休卒
 名典貞号金溪
 陸人小日向金剛
 著
 ○古今相撲大全撰行
 木村政務
 著
 ○志道新傳撰行
 風来山人
 撰

此年間記事

日暮里芝森稲荷三管社新の外ふ勅清次○増上寺塔頭公光院赤羽根
 川端一移る○同是幡籠寺境内窟出末る○宝曆中淡路山の上人本
 派小よりて江戸並近在合々弘法大師八十八箇取末始る
 大進取派
 小りりる○秋森

稲荷系宝曆九年迄隔年産子の町より花出練物作樂を渡りるが其後
 中絶也○小野照崎明林系隔年作樂出練物を出りるが宝曆七五年より
 中絶也○宝曆末より久日新田社系系請多社地又矢を賣始諸人求てち
 とと○根岸田光る庭中蘇の毛盛の以貴後越親多○婦女菅笠
 磨り書紙紙よて漲る日傘行る○夏合相夏火事羽織漸く振る○土佐
 節浮稲穂磨れ江戸流河東甚大坂の義古より京の蘭八甚正徳末の
 海より流る○卜者平沢左内ね学者林登軍書講練師深井志道初
 其傳次あひのむらじ滋野瑞竜成田壽仙小行る書仙の○此頃大極形船六七十艘ありし
 あり
 よし塵塚終よいり○且那のわつと膏菜と唱て市中一葉を賣る者あり○
 浮世繪師於末真信石川豊信秀範と号す掛圓飯盛の父也と
 七弟 鬼玉其外多○好事の輩古跡を集り事行る
 為辰清信山在哉信

○は時代世上の風俗をのびる後名本乃れ教の権柄一けるを撰て評判記を
 他り千石傳と歌に中内蜀山人の水権論を別て賞せり ○芝紀遠武玉川と
 いふ俳出十六巻をせり一人の笑柄とて川柳が柄柄も是より出り少く云
 ○山本靜觀坊といふ者下巻の義といふ巻紙をありて世に流る載るところ
 戯文あれども教戒の言を以て人の萬書十三部程あり 某述目録も出たり傍考の
 因向院も出りて下巻に載り
 仍れ各他人の他めてこれを以て下巻に載り ○芝三田 俗林
 三角 賦歌の詞と云る言評 芝三田の言評
 中より出る
 ○赤衣小曳尾巻云云既河鬼を上りて丸の方小嵩坊川端より石
 二枚それが家の前より男女の石像あり是は宝曆の以飛戸小砂屋よりて其家の
 史婦の石像といふ後年巻落して流るる子孫もあつたり一ふや取あまら
 ばは後名本乃れを文化の半底を云はて賽沙舟をゆくり史婦石
 と号して何る流り立れり人多くと云く ○宝曆三年の以より大文字巻の

大うがわわといふ童謡流る 古歌集町あまを市を流るる童謡といふ
 のごとくはるがわわと異なりはる自らかくてて人を笑せしむるとを
 又云えり
 ○寄合茶巻浅草巻巻巻深川雪宮流る ○標世居盛不乃巻
 一り宝曆の如豊竹肥前椽流る一うと未決が芝居ありて尚藝昌一すく
 福内鬼外 標平賀
 原内 降福瑞ありて他り出せり 何れも佳化之 昭和七年小徳寺の文に
 原の上より標まうけり
 珠と藝 珠と藝
 昌せり ○宝曆中西村重長が繪本江戸みわけ國中あり國涼の巻は水巻
 極楽巻の巻極平一見世毎は乃巻を巻て川原と記せり吉原より新編
 巻茶巻編り多乃巻一て何り安乃の女子帽子せりむる浅草廿乃巻茶巻の
 何んとう ○巻花巻あざ何り ○婦女の衣敷下子巻の色を好む花巻と
 や家来巻の櫛 櫛の櫛
 とり 象牙の弁も乃巻一 ○硝子の外國のりはありを
 蘭人指後り中古巻流るて製するを得京大坂小傳一を近以京敷一
 其職人多く出来て其の器を製し漆業と流る者あり一何り曳尾巻云く

○今年五月より明和六年九月と云ふ間尾村太鼓播普清成 東保の本舎某於
主の秋六に再修せる

不中して江戸新の石工奉附する所之程其の是傍下
後田屋茂を勝といふ物ありと云

○六月飛戸聖廟の傍に能人之申 せむいなり くるが

連舟舎を建てる ち申の三十百博茂木わよそ和東極物ぬと
いひ一りの之を博後か昔物語名家異伝本あり

○六月の比より深川 えんさ

松茂大所番政久保豊州彦下やと云猶前社系諸群集す諸人 そが さま

蕎麥切を備へ八月下旬ふりり諸人止む ○深川三十三万石再建 宝曆
十年

吳後建立 ○七月九日より十月十日迄護國寺より後父三十三番札所親者物困 ちか

帳 ○秋加茂共洲新演町一家を後一巻を野辺又畑小他りて何れと云つ あひ のべ

九月十三夜 こわらたのつやわつこのころをふ
月ひきよりとん人もうた 志剛 ○十月廿二日深川より清元祖富本共 しん
か

為文死 十月十九日
伊藤院は善次 ○十月琉球人東正使續谷山王子 王子の名を朝恒といふ和人のごとく
とつひとよりは深川流球清元
載るるを
ニッ何ぐ

秋毎よりせ友とておのの宮ありと云るの月々け

不二 人よりいつかさんとのまふぬとぬりの書けりて云

祝の心を 波風もどきどき君の代われれと云るぬ日の本は里

○十一月廿八日能人活井喬宝卒 七十五才 西の年中
榮徳の孫 ○十二月朝鮮種人參賣私陸免

○十二月町火消の内曲梅道達十三組一統吐水を後 しん
か

○十二月廿三日夜五半時村田園口町より出火して村田町に於燒明七の時 あま

○閏十二月十七日比内浅草田町より出火して久川端聖天町迄燒せり

明和二年乙酉

二月日暮里妙隆寺太神宮本地親迎鬼子母神祖師開帳 ○谷中三運寺

祖師開帳 ○三月七日篠轉師深井志道軒終 名繁山号を一事と云ひ云ふ如是院の
傍之街轉師も感觸して杖を去り後

浅草花川戸兵衛長屋といふ所は住僧其の境内において軍衣を蕭ひするふ敷言せ交はる人を
して絶園せしむ一座お傍と云われ必識する甚一日に多々の勢を好むといふと云ふ酒ふくく翌日

の勢をさす立世の目自ら肖像を画す持ふと云敷言せ交はる人およめ云ふまこと云低再

若以今年午也方めく終り浅草中倉金剛院は藝次一男一女あり男を三々女を二二と云禪名を云

形三助と稱するもあはれき事ありんかのよしはなれ
 志た形が奇とて一の 辞世 未よりぬりとせられ月日(西)とてくまのまや
 又同時小澤野瑞就軒といふ講釈師も昔よりきくし生男甚蔵父の名を継て
 吉耕せり ○四月日光山所社忌万部新法會 ○飛戸村あり鐵鑄を鑄さる
 らる ○六月より平井浦右衛門といふ若深川所壽の末小沢除土名長十七町餘言
 一丈二尺六寸有る踏式をせ築立新さ小沢万坪餘の地を寄兒聖成年七月廿日
 日より極を焼始むあつ所を平井新田といふに於てより見物の人駭くは安永
 小いころるもあつ止り は不慈親の所とありて大彼屋といふ ○秋發切もある ○七月
 朔日より日向院あり武及府中深大寺厄除元三大師開帳 ○月日より永代寺
 あり張及富士裾野厚系曾我八幡宮 拓成 時致 神像玉波明神 荒 神 開帳 ○月より
 日より日向院あり梅田村不動尊開帳 ○七月より三田善林あり出吹河院院如來
 開帳 ○八月三日大風も深川辺其餘床上水立る ○八月十六日二朱判吉吉晴

死 今余大 ○夏浦より一丈余の魚上る後西國橋畔より見世物と似色白く鱗あり
 鯨の如し名をマンボウと云 ○九月五日後通用始る ○九月七日儒師長井峰川

卒 名孝先称郡左史 志福東禪寺小葬儀 ○九月向終續き神田明神奉禮九月廿三日小後り神樂渡
 り所の町々横町のめ切神主於い小依り當年より柵を結ふる小成まり

○十月廿五日儒師本村蓮葉卒 名貞貴字君忠 日吉保記寺小葬儀 ○十一月神田今川橋あり右火除
 土多再興 ○十二月神田依久町小醫學館建 多紀氏 基立 ○十二月四日昼時目白

臺より出火夕七時迄燃る焼焼多し ○十二月廿九日書家関恩恭卒 台十 九才
 号鳳岡称深内小石川 称名寺小葬儀

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺より三洲伊賀村八幡宮奉祀茶師如來開帳 ○二月
 廿日より所義前花徳院あり三石碧海郡上重原村遍照院弘法大師開帳

○二月廿九日堺町新築付油の店音形より火火しくある所の芝居敷焼、大風よ
 しく焼廣がり因獄の辺にさるる○三月十二日下谷溝に家より火火車坂下まで
 焼亡せり○四月朔日より日尾不動寺より下野園若船山地蔵寺同様
 ○同日より祐天寺跡地若船山地蔵寺同様○同日より濃谷金山五八幡
 宮園様○大久保法善寺七面明神園様○四月朔日より回向院にて大和
 飯系若光寺天満宮本北十一面觀世音園様○高田院八幡寺地佛園
 様○谷中宗林寺舟中三郎鬼子母神祖師天海宮園様○幡谷谷莊殿
 寺不動寺同様○芝野宿社地にて武州多摩郡國分寺薬師日光月
 光并同様○七月六日法外小日向小石川本所の辺にて水害増まり
 ○靈巖島理之地成り俗并薬蕪島といふ○七月朔日より回向院より
 川崎真福寺兼師如來園様○同日より回向院にて神奈川觀福寺浦島

大社寺佛觀世音鎌倉一ノ宮同様○同日より淺草寺内相善院史六年方天
 履龜寺若手様八月日○同日より淺草寺境内にて紀及加太淺島神社本池
 虚空藏菩薩園様○護國寺より駿河富士山宗人若兼三尊佛園様
 ○淺草権寺より上乃甘樂粉白井深堂寺兼師如來園光丈師園様
 ○龜戸龍眼寺池邊小枝株の萩を裁り是より毎年盛の以昔様
 遊覧の地と成り專阿墨翁師の説ふは時代止る處の辺に盜賊賊個して仍來の人の衣類
 を剥奪する者ありと云ふを信ぜざるに及ぶと云ふを裁りて萩と名づくる一と
 ○十一月二日倭人柳新斎茶批率五十才駒込地性寺小暮以菅神若納福寺
 一日五才句身仍せしより五才寺と号
 明治四年丁亥 九月圓
 正月元旦未八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より永代寺にて江戶外生
 島舟才天西玉札所觀世音園様○同日より津川海崎舟才天園様○同日よ
 回向院兼若舟才天園様○四月より日尾不動寺若船山地蔵寺同様
 全畏症 毎五天

開帳 ○四月より谷中奉光古祖師開帳 ○後町権子宮室塔元元大師開帳
 ○相五川の島下の宮弁才延開帳江戸より来訪多し ○国東川の渡あり
 ○四月九日約形町より山火渡り風雷神門焼る二神像金龍山の額も
 恙多し ○真先神明宮の地より辻大納言家長卿沖下持あり ○菅神
 の像をとりて勧請あり ○四月十二日儒師赤松太慶卒 名弘 林平年 ○六月八日儒
 師服部仲英卒 名雄南郭の 長子あり ○七月廿二日儒師大數鐵塘卒 名良真林名忠 後其室おらふ葬
 七月廿四日神陰流銀樹師長沼四郎元清の國々卒 八十六歳 初運ふ葬 ○八月三日画人
 波辺漫水卒 年六十八名從林名義麻布若福ふ小葬以 男七妻對と云ふ小画を長く交政中卒也 ○八月十五日田穴八幡宮祭礼
 産子町より出し殊物と出れ神樂神樂坂の御旅不返しものより 中絶也
 ○十一月晦日儒師赤松沙鶴卒 名舊邨太慶の父也 麻布若福ふ小葬 ○秋祭切り ○十二月五夜浪
 のりお屋おより次金をあふ十二枚の通用と成る ○十二月書家飯田百川 以中絶也

卒 名親清林源口郎 慶源の門人之く後董其昌を學ぶ近世 西久保青菴ふ小葬 董帖を摹するふいふより多るとりふ

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒 徐保三弟名信持号東寒翁 二本松兼教の中頭文院に葬以 ○二月廿日より
 王子権現王子稲荷明神開帳 ○二月三都より降土真宗の怪しき法儀
 を行ひ一りのを刑せざる 俗まわりの門流と いひんこれあり ○三月千駄谷聖福寺如意輪觀
 世音開帳 ○三月十六日より永代寺にて京大原野春日明神開帳 ○三月
 廿日より三田八幡宮開帳 冥室を合れこれあり 号ひらりの出り ○回向院にて尾洲野間の開帳 おち とうつこ
 河堂地蔵寺開帳 ○三月大師河系村百姓太郎左衛門砂糖を製し弘む 製法 竹枝
 せまき若多し紀勢名不圖舎おりの以より紀勢府城の為漢雜交登所あり雜交登何某製
 法を傳へて船に在田粒小豆島村の田畑不甘藤をうゑてこれを製しける今法を小製しるの彼が
 傳をまゐる考ふしこのり製法の多平賀橋渡の物影品陽ふりつりこの時代まで
 砂糖不取り新東の物とのを好むより一慶應終より今二般と和製法の物なり ○四月朔日
 より是る弘法古祖師開帳 ○四月六日曉八時吉原江戸町或丁より山火大

風之廓跡^{たわもこ}より五十軒送^たて焼亡^し

明暦丁酉の災該高野(格)りて焼失ありたり
卷のなかの今年廓中のこと焼亡九戸の概

山谷新を越^こへて七日のち高妻^{たかつま}せり

○六月廿九日^{しんちゅう}通^{しんちゅう}用^{しんちゅう}始^{しんちゅう}

伊文治の御事
おのて始り

七龍^{りゅう}和^わ製^{せい}衣^いを命^{めい}せしれ三都^{さんと}不^ふ售^{けい}也^{なり}

○六月九日鳥越^{あひま}明^あ神^{かみ}祭^{まつり}禮^{らい}神^{かみ}を^し改^かて

子^こ所^{しよ}より出^いて^し体^{たい}物^{ぶつ}を^し出^いせり

○六月十六日夜四時五十分大雨^{あつめ}雷^{かみ}

○九月十八日哥人村田^{あきさと}妻^{つま}郷^{ごう}卒^す

三才妻海の兄多
津川幸次郎の妻

明和六年己丑

正月五日書家^{いさみ}高^{たか}顯^{けん}卒^す

名玄融牛込町
院王の妻

谷安^{あいら}五^ご祖^そ師^し閑^{かん}帳^{ちやう}

○谷中本妻^{のろ}より下^{あきと}総^{そう}野^の良^ら妙^{みよ}尊^{そん}と^し祖^そ師^し閑^{かん}帳^{ちやう}

○三月十五日より龍戸^{りゆうと}天^{てん}法^{ぽう}言^{ごん}内^{ない}あり越^こ後^ご言^{ごん}内^{ない}あり春日^{かすか}日^{にち}神^{かみ}本^{ほん}地^ち親^{おん}志^し音^{おん}

兼^{かみ}不^ふ和^わ言^{ごん}閑^{かん}帳^{ちやう}○三月より護^ご國^{こく}寺^じあり大^{だい}和^わ子^こ島^{しま}あり大^{だい}峯^{ほう}洋^{やう}仗^{じやう}役^{やく}乃^{なり}

者^{しや}閑^{かん}帳^{ちやう}○押上^{おしあが}春^{はる}慶^{けい}寺^じ尊^{そん}賢^{けん}井^い閑^{かん}帳^{ちやう}○四月朔日永代^{えいだい}寺^じ四^し國^{こく}琴^{こと}彈^{だん}山^{さん}

の字^{しや}阿^あ弥^み陀^だ如^{にょ}來^{らい}天^{てん}地^ち不^ふ動^{どう}言^{ごん}小^{せう}向^{かう}坊^{ぼう}より閑^{かん}帳^{ちやう}○四月八日より湯^ゆ島^{しま}社^{しゃ}地^ちより

て和^わ泉^{いん}石^{せき}津^つ大^{だい}社^{しゃ}笑^{えい}姿^そ閑^{かん}帳^{ちやう}式内の社と云社人石津連と云この時巫女二人ありけを
権とておのり名残かありわらうと云於本妻依神像より

多^たく○淺^{せん}草^{そう}間^{かん}齋^{さい}堂^{だう}あり是^{こゝ}立^た於^{こゝ}十^{じゅう}連^{れん}寺^じ熾^し魔^ま王^{おう}山^{さん}光^{こう}大^{だい}師^し閑^{かん}帳^{ちやう}

○四月七日より回^{かい}向^{かう}院^{いん}あり川^{がわ}口^{ぐち}善^{ぜん}光^{こう}寺^じ阿^あ弥^み陀^だ如^{にょ}來^{らい}閑^{かん}帳^{ちやう}○淺^{せん}草^{そう}寺^じ境^{けい}内^{ない}

より奥^{おく}洲^{しゅう}二^に本^{ほん}松^{しょう}鏡^{きやう}石^{せき}あり安達東恩神運所
赤光坊後佛親^{おん}世^せ善^{ぜん}閑^{かん}帳^{ちやう}○四月十八日より六月八

日^{にち}迄^{いた}淺^{せん}草^{そう}寺^じ親^{おん}世^せ善^{ぜん}閑^{かん}帳^{ちやう}○五月朔日より淺^{せん}草^{そう}権^{けん}寺^じあり常^{じょう}陸^{りく}鹿^か島^{しま}廣^{こう}徳^{とく}

寺^じ廉^{れん}島^{しま}本^{ほん}地^ち赤^{せき}童^{どう}子^こ閑^{かん}帳^{ちやう}○同日より所^{ところ}苑^{えん}前^{まへ}十五^{じゅうご}堂^{だう}あり和^わ及^{じやう}町^{ちやう}屋^や村^{むら}梅^{ばい}

雲^{うん}より三^{さん}宝^{ほう}荒^あ神^{かみ}屋^や帳^{ちやう}○七月廿日哥人村田^{あきさと}妻^{つま}道^{みち}卒^す

より八月上旬迄^{いた}彗^{すい}星^{せい}現^{げん}る長^{ちやう}教^{きやう}丈^{じやう}第^{だい}の如^{ごと}縮^{しゆく}星^{せい}といふ

より大^{だい}風^{ふう}雨^う雷^{らい}鳴^なあり人^{ひと}家^かを^し傷^や損^{そん}る津^つ川^{がわ}三^{さん}三^{さん}乃^{なり}堂^{だう}倒^{たふ}る○七月廿日

算^{さん}術^{じゆつ}師^し長^{ちやう}部^ぶ綱^{なう}糸^い卒^す孫左方史
牛込長部小暮○九月十日小^{せう}石^{せき}川^{がわ}氷^{ひやう}川^{がわ}明^{めい}神^{かみ}祭^{まつり}禮^{らい}子^こ

町より出づ練物せしむ休む ○十月風邪流行其候始りては分一大家
おのれ業を多桶入りて

運以下遊ふもの ○十月十二日官儒青木崑陽先生卒七十二才号草廬休文菴云
茂摩草を他り始りて

程のことあり
甘藷先生といひ同字流承もの
後の山おみり所の碑文を字せり

一面甘藷先生墓とあり石の方ふ如し流以

享保二十年青木敦書蒙命種甘藷因人呼予曰甘藷先生甘
藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓

左の方ふ云

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十
二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村

○十月廿六日金雕工濱野政隨終七十日
称太斎名 君為儒堂葬地于此故也

○十月晦日加茂真淵翁江戸終七十二才号平川東海守中
少林院小葬以

武江年表卷之五終

